



新世代奉仕の新しい道はどこに？

国際ロータリー第2510地区

2011-2012年度 ガバナー **熊澤隆樹**

(小樽RC)

国際ロータリーは、昨年度から奉仕部門に「新世代」を加えて五大奉仕部門としました。そして国際ロータリーから次のような声明文が出されました。「新世代奉仕は、指導力養成活動、奉仕プロジェクト、交換プログラムを通じて、青少年と若者によって好ましい変化がもたらされることを認識するものである」というものです。

新世代奉仕は、インターアクト、ローターアクト、RYLA（当地区では活動停止中）等のプログラムだけではなく、青少年交換なども含めた地域ならびに国際間における青少年への大きな働きにどのようなリーダーシップを発揮するかが問題になり始めているということを今度当地区大会初日、地区指導者育成セミナーの講演が決まった今井鎮雄PDG（元RI理事）が今年のロータリー研究会で話されています。

当日は「(仮称)新世代の未来をみつめて」という演題ですので、会長・幹事だけでなく、新世代奉仕担当のロータリアンの出席をお待ちしております。

クリングスミス前RI会長も「**新世代が大切なのはロータリーの未来にとってばかりでなく、私たちの地域社会や世界全体にとっても言えることです。新世代の素晴らしいプログラムで、私たちがしなければならないことは、それをもっと世界にアピールすることです**」と言っており、私の地区目標に掲げたロータリーをまわりに巧みに語りかけることになる奉仕活動として大きな働きが期待できます。

新世代に対する種々なプログラムは、その目的とするところは青少年の心を育てることにあるのですが、これまで学校教育への積極的参加（ロータリアンの出前講演、授業、インターアクトクラブをスポンサーし、奉仕の心を伝え共に実践する）、ロータリアンの職場でのインターシップを受け入れ、青少年交換学生受入・派遣を通しての異文化交流、理解、共生の大切さの享受などを行ってきました。これらは、現在の危機的な子供を育てる教育環境の中であって、それを解決するために役に立つ新世代プログラムであります。それは、倫理観、正義感、道徳心の希薄化が言われる青少年に対しての「心の教育」であり、「他者そして社会に対する奉仕することへの喜びを学ぶこと」の大切さを教えてくれます。

そこで、我々ロータリアンは、プログラムの内容あるいは指導の仕方、そういうものを改めて考える必要があるのではないかと思います。

そんな中で、最近いくつかの問題が起きている青少年交換プログラムの危機管理に伴い、日本では青少年交換委員の方々がNPO法人を取得し、**NPO法人RIJYEC**（ライジェック）を設立しました。そしてこれが主催する「第3回国際ロータリー日本青少年交換研究会（札幌会議）」が来春4月28日（土）、29日（日）、RIJYECの社員、丸山淳士PDGのもと柳孝一実行委員長で、札幌パークホテルで開催されます。参加される全国のロータリアンとの交流を通じて、新世代奉仕の新しい道が開かれることを願ってやみません。新世代奉仕月間にあたり一言。